

St. Ursula

70th
Anniversary



聖ウルスラ学院 英智報

2021

学校法人
聖ウルスラ学院
設立70周年

チームウルスラ
★
教育改革最前線



vol.42 2021. 12

今こそ、受け継がれるべき伝統と 未来を見据えた革新的先進教育の融合を。

本学院は1936年カナダから来日した聖ウルスラ修道会・修道女による幼稚園創立に始まり、家庭学校、小学校の創立を経て、1951年に学校法人として認可を受けました。中学校、高等学校の創立後は21世紀を見据えた教育環境を整え、2002年からは本学院独自の教育改革・学校改革に着手し、法人設立70年を迎える今年、確かな成果を実感しているところです。



学校法人聖ウルスラ学院
理事長 梶田 勲一

聖ウルスラ学院英智の推進するカトリック的な人間教育の取り組みについて、日頃より温かいご理解とご支援をいただいておりますこと、深く感謝申し上げます。

本学院の基本的な願いは、一人ひとりの子どもが、神様の大きな力によって生かされていることを自覚し、豊かな個性を持つ、しっかりした人間として成長していくことです。そして、社会の一員として有意義な働きができるようになると同時に、自分自身に与えられた生命に感謝し、自らの人生を満足できるものにしていく力をつけていくことにあります。この目標に向け、必要な学力を着実に身につけると同時に、自分自身の内面世界を充実したものにしていくことを目指し、教職員一丸となって日々努力しています。

学校法人設立70周年という佳節にあたり、本学院の教育のあり方について、改めて深いご理解をいただき、倍旧の温かいご協力ご支援を賜りますよう、心からお願いいたします。



聖ウルスラ学院英智
小・中学校 / 高等学校
校長 伊藤 宣子

未来を拓き未来を歩む力を育む15年間一貫教

～幼児期から成人18歳までの教育～ 「地の塩、世に光として歩む人間力の涵養を」

理事長梶田勲一氏就任2002年から今日までの20年間は、まさにエポックメイキングな未来への通過点となっていたと言える慶びがあります。新時代21世紀として、ユビキタス社会の到来、AIとの共存社会への期待、グローバル社会等々、新時代への期待と不安、そして、だからこそ日本のあらゆる場面での構造改革が叫ばれた時でもありました。

中央教育審議会の重鎮で在られた理事長梶田勲一氏は超人的な発想と行動力によって時代を見据えた学校教育の構造改革をリードしてくださったのです。梶田勲一氏のお話や著書に記される教育理論は、子どもたちの現状や社会における学校現場の実体を踏まえて勇気と励ましを与えてくれるものであり、だからこそ、私たち「チーム・ウルスラ英智」は挑戦し続け前進し続けてこれたのだと思います。

そして今、ここに更なる転換期が今私たちの前に立ちはだかっていると思います。Society5.0へと時代は変化し、想像と創造力によって新たな価値を作り上げる「確かな高い学力」の育成が教育界に求められているのです。そして本学の第二次改革と実践教育が「カリキュラムマネジメント英智」に策定され、その始動の時に入っています。

どんな時代に変化しようとも、「不易なる教育（建学の精神）」をベースにした「流行の教育」が構築され続けてきた486年の史実から学びを深め、更なる教育前進を為し続けたいと思っています。



聖ウルスラ学院英智幼稚園
園長 佐取 美智子

幼稚園は、法人設立の2年前から「小さき花幼稚園」としてスタートしており、72年を過ぎました。『明るく、元気に、神の前に正しく』をモットーとして、また、『みんなのわ』を心に、全教職員、子どもたちと共に歩んでおります。感性豊かな子どもたちになって欲しい、そして、他人への思いやりの心、協力する心、最後まで諦めない心など、人間として大切なものを、この幼児期にしっかりと育みたいと思います。また、言語技術教育やSDGsなど、未来の社会に向けて対応できる子どもたちを育むことも大切です。教育の中で、変えてはならないもの、変えるべきものを、しっかりと見極めて進みたいと思います。

今まで、たくさんの方々にお力添えをいただいていた歩んできました。皆様に感謝しつつ、長年築いてきたカトリック教育の精神を、忘れることなく可愛らしい子どもたちと共に、これからも歩み続けたいと思います。



聖ウルスラ学院 法人事務局
局長 今野 正則

本学院は、教育基本理念である、「キリスト教的人間観に基づいた人格形成」を目指して歩んでまいりました。今日まで園児・児童・生徒たちが生き生きと教育活動を展開して大きな教育効果が達成できたことは、保護者の方々のご理解とご協力の賜物であり、加えて全教職員が一丸となり日々研鑽を積み重ねてきた結果であると考えております。

学校経営におきましては、多くの方々のご支援をいただき健全財政を推進してまいりますとともに、円滑な教育活動を実践するため、安全で安心して教育が受けられる教育環境整備に引き続き取り組んでまいります。

これまで本学院の教育理念に賛同していただきご支援していただいている方々に心から感謝を申し上げますとともに、本学院といたしましても教育実践活動の推進と教育成果の更なる進展を目指してまいりますので、引き続き御支援くださいますようお願い申し上げます。

今日見る夢はあしたの景色

聖ウルスラ学院

教育顧問 鈴鴨 清美



本学院は、今年創立70周年の慶節を迎えた。建学の精神を受け継いで今日まで学校の実績を積み上げてこられた方々には、敬意と感謝の念を禁じ得ない。

今、新たな思いでこの先の本校教育の営みを展望するとき、そこに映するのは、生き生きと躍動する園児、児童、生徒の姿であり、末永く光彩を放ちつづける美しいキャンパスの光景である。

いわく、「今日見る夢はあしたの景色」

新技術の活用と「補い」

聖ウルスラ学院 理事長補佐 兼務

聖ウルスラ学院英智高等学校 教頭

杉山 禎彦



今年度も本学院の小・中・高校入試に係るWebを用いた出願、及びその後の手続きが行われています。今回で3回目を迎えるWebシステムの入試業務における活用は、受験生やご家庭にとっても、在籍する中学校においても、そして入試を実施する本校にとっても、様々な面で利便性等が向上し有効性が確認されています。また、今や日常的に行われるオンライン授業やオンラインを用いた会議・面談も、今までなす術がなかった色々な課題の解決策となっており、コロナ禍が終息した後も継続して用いられるものと思われます。

ただし、このオンライン方式も万能ではありません。同じ教室に集まって行う授業でできること、つまり時間と空間を共有し直接的に関わり合っていることが全てできるわけではないのは当然ですが、単に会議・面談をする場合であっても、これを「魂の半ば抜かれた相手に前にするのは、奇妙に疲れる。」と表した人もいるように、伝えきれないものもあるでしょう。生身の人間の成長を目的とするのが教育ですから、そうした部分のなんらかの補い、たとえば手書きのハガキのやり取りを行うなど、必要に応じて体温を感じることができるような工夫も大切ではないかと思われます。

GIGAスクール構想のもとで

聖ウルスラ学院英智小・中学校

教頭 鹿野 紀幸



GIGAスクール構想のもと、今年度本校では次の点で動き始めました。第1に一人1台端末の実現として、3から7年生までの各教室に生徒数分のiPadが入りました。第2にセカンドステージではGoogleクラスルームを運営し始めました。第3にサードステージの各教室にプロジェクターの設置が決定しています。図らずも、コロナ感染症により日本のICT教育が急速に進むことになりましたが、本校としても遅れを取らないようにと動き始めたところです。プログラミング教育も含め、今年度数回の教員研修を行いました。今後はハード・ソフトの両面において、未来社会に向けた教育活動が充実したものになるよう、試行錯誤を重ねながら取り組んでいきたいと考えています。保護者の皆様にも何卒ご協力をお願いいたします。

「学び・育つ教育」を大切に

聖ウルスラ学院英智幼稚園

主任 庄子 美和



時代と共に、幼稚園教育に求められる内容も変化していますが、本園では現在、従来から大事にしてきた人を思いやる「心の教育」を基に、経験を通して「学び・育つ教育」に力を入れています。それは、遊びや生活の中で、自分でやりたいことをみつけて『考え・試し・判断』し、自分で行動できる子どもに育てるということです。最近、全園児参加で行った“お店屋さんごっこ”の中で、子どもたちが生き生きと取り組む姿に、私たちが目指している教育を垣間見ることができ、子どもたちの持つ可能性の大きさを感じました。

幼稚園生活の中で、自分の力でやり通した経験や、周りの人から大事にされる経験を子どもたちの中にたくさん蓄え、小学校以降の学びの場に引き継いでいければと思っています。

新学習指導要領に備えて

聖ウルスラ学院英智高等学校

研究主任 内海 知子



来春は、高校の新学習指導要領実施年度である。総合探究を軸としたカリキュラム・マネジメントが求められ、本校の研修でも全コース・教科が準備中だ。大学入試に必要な学力と探究の関連は弱い一方、国公立・難関大学の推薦要件にその成果が求められていることは注視が必要。探究学習を後退させることなく、受験にも対応する授業が必須である。高校の年間学習指導計画では10年以上前から「人間教育のねらい：願い」を学びのねらいと併記してきた。15年一貫教育の柱は「祈り～地の塩世の光」である生徒の輝く姿勢育成である。探究を軸に、18歳で巣立つ生徒たちが社会の変化をチャンスと捉えて可能性への扉とすべく、全ての教育活動を整理していきたい。

研究主題

「ESDで学校教育目標の具現化を図る」実現のために

聖ウルスラ学院英智小・中学校

研究主任 渡部 久美子



小・中学校の研究主題の実現には、チームウルスラ力が大きな鍵を握っています。本校のESD活動は、学年の発達段階に応じて教科横断的、多面的な視点をもって計画されています。目の前の学びが他教科の学びにつながっていることに気付いたときの驚き、既習の知識や思考が新たな創造を導き出したときの喜びは、もっと広げよう、深めようという、学びに向かう意欲を高めます。子どもたちに必要な資質・能力を効果的に伸ばすためには、9年間の学びを縦に横に見通して教育計画を立て、教員同士が連携して実践を積み上げていくことが重要なのです。今後も、教育目標の具現化を目指し、教員一同、チームウルスラ力のさらなる向上に努めてまいります。



紹介動画

楽しい幼稚園生活をご紹介します!

幼稚園は、子どもたち一人ひとりが初めて社会に出て、人や物との関わりを体験できる場所です。遊びや生活を通して様々な経験をし、大きく成長していきます。ここ1、2年は、例年通りに取り組めない行事や活動もありましたが、感染対策をしながら、形を変えてできることを楽しんでいます。



NEWS

頑張りました!!

【ミニスポーツデー】

毎年秋に行われる運動会。昨年は感染症予防対策のため学年別に保護者に来ていただき、名称も『ミニスポーツデー』に変更しました。

内容も縮小しての開催となりましたが、子どもたちは3日間のミニスポーツデーを楽しみました。



一人ひとりが
応援旗を作りました



「おさるさんになってよーいドン!」



ボール
落とさないでね!!



「みんなで玉入れがんばるぞ!」

TOPICS

楽しく学ぶ「英語」

全学年で英語教育に取り組んでいます。今年度から年中、年長組はテキストを使用し、幼稚園でも家庭でも英語を楽しんでいます。



「ブルック先生と!!」



「ミュージック
ストーリー」の
テキスト

みんな嬉しい「お弁当」

大好きなお母さんが作ってくれたお弁当を食べる時間は、子どもたちにとってとても楽しいひと時です。食事中はアクリル板を使って感染対策をし、『黙食だよ!』と静かに食べるようにしています。



「いただきまーす!」



「おべんとうおいしいね」



入賞おめでとう!

藤崎賞『レッサーパンダ』

澁谷虎ノ助(年長)

動物園に行ったときに「レッサーパンダ」が一番かわかったんだよ。体のかたちがいいなあと思ったんだよ。一番気に入っているところは顔! 嬉しい顔してたんだよ。あと「つり橋」のところが描いていて楽しかったよ。



第40回 みやぎ児童画展[入賞作品]

- | | |
|-----------------------------|--|
| 特選『おとうさん』小泉 璃空(年中) | |
| 特選『おかあさん』澁谷 花(年中) | |
| 特選『おかあさん』菅野 瑛愛(年中) | |
| 特選『おりょうりしているおかあさん』相澤 望絵(年長) | |
| 特選『せんたくをしているおかあさん』濱嶋 一華(年長) | |
| 入選『おかあさん』岡本 小春(年少) | |
| 入選『おとうさん』角田 元輝(年中) | |



ふたば組

3歳児

遊びを通して

遊ぶのって楽しいね!!

年少組の子どもたちは園生活にも慣れ、先生やお友だちと楽しく遊んでいます。ひとつひとつの遊びを通して、物の扱い方や友だちとの関わり方など、日々たくさんのかことを学んでいる子どもたちです。



つばみ組

4歳児

ようちえんまつり

毎年11月に行われる『ようちえんまつり』では、年中児は自分たちでアイデアを出し合い、材料を持ち寄ります。約3週間かけて手作りの品物を用意し、お店屋さんを開きます。当日はお店の係やお客さんとなって役割交替しながら、各クラスのお店屋さんを巡ってお買い物を楽しみます。自分たちが作った品物を買ってもらおうと懸命に呼び込みをしたり、『いかがですか?』とおすすめる年中児。自分の欲しいものを手に入れることだけでなく、人に喜んでもらうことにも嬉しさを感じていました。



どれにしようかな...

これください

はな組

5歳児

当番活動

年長になると、園生活の中で様々な役割を『お当番』として担います。

園で飼っているあひるのお世話をする『飼育当番』、晴れた日には園庭に旗をあげる『旗当番』、園のみんなが利用する図書の整頓をする『図書当番』などがあります。

当番活動の中には、洗う、絞る、結ぶ、たたむ、干す等、生活の中に必要な様々な要素が含まれます。前年の年長児から引き継いだ仕事に責任を持ち、一年間取り組む姿は、頼もしくまた、誇らしげな姿も感じます。そして、卒園を前に次の学年へと引き継ぎをするまで、張り切って当番活動をする年長の子どもたちです。





紹介動画

本校は2004年「みやぎ私立学校教育特区」における
研究開発学校として独自の教育過程がスタートし、
児童期・生徒期の「21世紀型人間力を育成」を学校方針に掲げ、
さまざまな学校改革を推し進めてきました。
学校法人設立70年となる今、
5年後、10年後を見据えたステージ教育づくりとは何か、
そして今後のコース教育のビジョンについてご紹介します。



First
Stage
1-4年生

5年後、10年後を見据えたFステージの教育
～今後のステージのビジョン～

1stステージ長 石澤 久美子

「愛を実行する子ども」

本校の教育目標を1stステージでは
次の4つのキーワードにまとめています。

1. 愛を実行する子ども
2. 力強い子ども
3. 進んで学習する子ども
4. 世界の兄弟と手をつなぐ子ども

世界と自己のうちに働く 神を知る

- | | |
|--|---|
| ① 愛を実行する子ども
感謝と愛のうちに生きる人 | ③ 進んで学習する子ども
自己に与えられた課題に
常に果敢に挑戦し、
自己を発展させるために努力する人 |
| ② 力強い子ども
内なる良心に従い、
自己の言動に責任を持つ自由な人 | ④ 世界の兄弟と手をつなぐ子ども
自他の尊厳を認め、謙る心をもって
福音的な社会の建設に向け、
自己の使命を果敢とする人 |

その中にある〈1〉のキーワードは、これからも本校の1stステージの土台として大切にしたいものです。
今年度、2年ぶりに行われた運動会。子どもたちは、運動会の本番までたくさんの練習を行いました。
初めての全体練習や学年練習では、うまくいかずに失敗することが多くありましたが、その失敗は日を重ね
るごとに減っていきました。子どもたちは一人ひとりが失敗を通して、どうすればうまくいくのか考えるよう
になります。また、失敗をした時に仲間から助けてもらったり、励ましてもらったりすることで、「次は
頑張ろう!」「うれしいなあ!」「○○さん、ありがとう!」と失敗が挑戦する力に変わっていきます。これが
『愛を実行する』ということなのだと思います。当日は、笑顔いっぱい大成功の運動会になりました。この
ような経験を通して、子どもたちは相手を思いやり、心から感謝できる人に成長していくのです。

これからもウルスラ英智の子どもたちには、いろいろな事柄に挑戦し、失敗を含めて多くの経験を積んで
欲しいと願っています。

NEWS

元気いっぱい【運動会】

5月30日(日) Fステージ運動会が行われました。
今年の運動会のテーマは、「Bigスマイル〜力を合わ
せてがんばるぞ!!〜」。ステージ目標の『チームワーク』を
高め合いながら練習を進めてきました。運動会当日は、
子どもたちの熱い気持ちを後押しするような晴天に恵まれ、
力いっぱい練習の成果を発揮することができました。

様々な点でコロナ感染予
防に保護者の皆様のご協力
をいただき、無事に運動会を
終えることができましたこと、
心より感謝申し上げます。



TOPICS

【学習発表会】の様子を配信

今年度のファーストステージ英智学習発表会は、
動画配信にてご覧いただきました。全学年、英語劇
に挑戦しましたが、子どもたちは表現豊かにのびのびと
演じ、チームワークを発揮した見ごたえのある発表に仕上が
ったと思います。

頑張った子どもたちの生き生きとした姿を、保護者の
皆様にお届けすることができたのではないのでしょうか。



Second Stage 5-7年生

Sステージの教育 ～今後のステージのビジョン～

2ndステージ長 菅野 真澄

小・中一体型の校舎となり、10年が経ちました。小学生と中学生と一緒に活動するSステージではFステージで培った力を基に様々なことにチャレンジする子どもたちの姿が見られます。

今年度からタブレットが一人に1台整備され、学びの形も大きく変わろうとしています。これからの子どもたちは、変化が激しく予測不能な時代を生きていくことになります。別の見方をすれば、どんな人も未知のことに挑戦し新しいものを作り上げることができる時代ともいえます。子どもたちには物事を柔軟にとらえ、倫理観をもち、主体的に行動する人になってほしいと思います。

Sステージは「考える」を合言葉に、日常生活だけでなく縦割り活動（クラブ・委員会・行事）を通して、自分のよさを見つけ、互いの個性を受け入れ尊重していくことを学んでいます。その土台として自己肯定感を高めること、他者との関わりの中で多様性を受け入れること、そして自分らしい生き方を実現する力をつける

ことに取り組んでいきたいと考えています。そのためには正しい知識を持つことと、互いに意見を出し合い、理解した上で合意するプロセスを経験することが重要だと思います。

Sステージの先生方は、子どもたちが感じていることを言葉にできるよう耳を傾け、言葉を引き出すことを日々心掛けています。感情について理解し、相手へ思いを伝えることを学ぶことが子どもの成長を支えます。これからも家庭と学校で協力し、自ら行動を起こし、力強く生きる児童生徒を育てていきたいと思っています。

プログラミング教育



NEWS

【アンガーマネジメント講習】で 対話のルールやマナーを学ぶ

セカンドステージでは、毎年、講師の先生をお招きして、アンガーマネジメント講習を行っています。講習では、友達との対話を通して、「感情には種類があること」や「同じ出来事に対しても生じる感情は異なること」を実感したり、怒りの3つのルール（①人を傷つけない ②自分を傷つけない ③物を壊さない）に照らして、怒りの温度計を振り返り、どの段階になったらルールに反してしまうのかを考えたりしました。

また、7年生は、カードゲームをしながら、具体的な場面ごとに、相手だったらどれくらい怒りを感じるのか考え、なぜそう感じるのか、どういう行動をとることができるか等、意見交換をしました。児童生徒は、このような活動を通して、少しずつ自分の怒りの特徴や怒りをコントロールするにはどのような振る舞いをすればよいのかということを学ぶことができました。



【児童生徒の声】

- イライラしたときの対処法やすっきりする方法を知り、勉強になりました。イライラしたときも怒りを相手に強くぶつけるのではなく、自分の気持ちを丁寧に伝えることが大切だと感じました。一口に怒りといっても、いろいろな気持ちがあることに気づきました。
- 自分のその時の気持ちが分かったからとてもよかったです。怒り方、怒るときのマナーなど怒りに対してたくさん学ぶことができました。今回学んだことを家族に伝えて、いつでも楽しく明るく過ごしたいです。

TOPICS

縦割りチーム挑戦！ 【フレンドパーク】開催

セカンドステージでは昨年度から、5～7年生の縦割りチームで様々な競技に挑戦する「フレンドパーク」が行われています。

この行事の目的は

- ① 集団の一員として行動することへの意識向上を図ること
- ② 児童・生徒間の交流を深め、協力する姿勢とお互いをいたわり尊重する心を養うこと
- ③ 運動に親しみ、体力の向上を図るきっかけとすること

です。

11月25日（木）には今年度2回目のフレンドパークとして、ドッジボール大会が開催され、7年生と6年生が競技担当者としてチームをまとめました。特に7年生は、率先して集合場所で下級生に声をかけたり、良い雰囲気づくりに努めたりする様子が見られました。一人ひとりが良い行事にしようという心がけていました。



【児童生徒の声】

- チームに指示を出したり、どこに行けばいいかわからない下級生を連れて行ってあげたりすることができた。また、同級生よりも5・6年生とたくさん話することができた。（7年）
- チームのみんなの名前を覚えて、本番に臨むことができた。本番の試合ではお互いに名前を呼び合って、チームワークを高められた。（5年）
- もし運営側になったら、チームが負けそうなときに盛り上げる言葉をかけられるになりたい。もっとチームメイトと交流できるようになりたい。（5年）

Third Stage 8-9年生

Tステージの教育 ～今後のステージのビジョン～

3rdステージ/特別志学コースType1 コース長 甲田 裕記

今年で特別志学コースType1につながるクラスとしての、7年C組ができてちょうど10年という節目を迎えました。Type1コースに進学する内部生も年々増え、その一人ひとりが高等学校での学びをより深めるために、それぞれに進路を開拓しています。

現在の7CはType1コースでは22期生、9年生は20期生、高校3年生は17期生、卒業した学年は16学年と、コースとしての歴史も着実に積み上がってきています。今後は、中高をType1コースで過ごした生徒が、社会に出て活躍していくことでしょう。そうしたときに、それぞれの集団の中で、各自が自立した人間として主体的に人生を歩んでほしいと願いながら、日々目の前の生徒たちと向き合っています。

これまでよりも、思考力・判断力・表現力が求められる世の中となってきましたが、今後は自分たちだけでなく、卒業生の力も借りながら、より生徒が視野を広げていくことができるような仕掛けをしていきたいと考えています。

3rdステージ/特別志学コースType2 コース長 清水 智則

10年後を見据え、コース、学校をどう築いていくか。10年後の学校を予想してみる…。生徒は教室でPCを使う。教師が配るのはプリントではなく、データファイル。学校から紙がなくなる。教師がデジタルコンテンツを駆使して授業を進める。学校から黒板とチョークがなくなる。ロボット掃除機が深夜に黙々と動いてくれる。学校から掃除当番がなくなる。働き方改革が進む。17時以降学校から人がいなくなる。人がいなくなれば、部活動もなくなる。オンライン授業を家で受けることが自由に選択できるようになる。学校から不登校がなくなる。時間割は学校が作るのではなく、生徒が作り、誰に教わるかも生徒が選べるようになる。人気のない教師は授業がなくなる。(これらは、私の勝手な予想です。)

東京商工リサーチは、2020年の企業の平均寿命は、およそ25年というデータを出している。学校も安泰ではない。今後学校は何を変え、何を変えてはいけないのか、しっかりと見極めなければならない時にきている。

マリア祭



校外学習



聴覚支援学校交流会



NEWS

【パラリンピック講演＆体験会】

サードステージ9学年は昨年度、地球市民の時間で「オリンピック・パラリンピック教育」を実践してきました。パラリンピックへの理解を深めながら共生社会を考え、シッティングバレーボールやゴールボールの体験活動を行いました。この学習の一環として、6月10日に「個性や自分らしさを考えよう!」という演題で、車いすマラソンで2度のパラリンピックに出場したことのある花岡伸和氏による講演会を開催しました。また、バラスポーツの「ボッチャ」体験も行いました。



【生徒の声】Type2コース 9-1 中川 義裕

パラリンピックの講演会では、元パラリンピアンの花岡伸和さんが講演してくれました。花岡さんは、高校3年生の時にバイク事故で車いす生活になりながら、2年後には車いすマラソンをはじめ、17年以上も競技生活を続けました。

私は、花岡さんが事故で歩けなくなっても目標を見つけ、その目標に向かって納得がいくまで競技をやり続けた姿勢に感銘を受けました。また、講演会をとおして、パラリンピックに興味を持ち、テレビやネットで調べるきっかけになりました。

TOPICS

【ハンドタオルのプレゼント】

サードステージでは毎年12月、啓佑学園にハンドタオルを贈っています。この活動はもう25年程前から継続している活動です。生徒たちはハンドタオル1枚1枚に、フェルト生地で作ったかわいいワンポイントを縫い付けます。啓佑学園の子どもたちの笑顔を思い浮かべながら、今年もこの活動がはじまりました。



【生徒の声】Type1コース 9-1 菊池 さや子

私が、ハンドタオルを作成する中でずっと考えていたことは、このハンドタオルを受け取った方がよろこんでくれるかな、ということです。やはり私は自分が受け取って嬉しいと感じるものをあげたいと思うし、誰かが自分のしたことで喜んでくれるのを見たり聞いたりすることが好きだからです。

私がつくったハンドタオルを受け取った方がよろこんでくれたら幸いです。

持続可能な開発のための
教育を実現する

ESD への取り組み

2012年にユネスコスクールに加盟して以来、本校は、子どもたちが持続可能な未来の担い手として活躍する将来を願いながら、精力的にESD（持続可能な開発のための教育）を展開してきました。それは、近年よく見聞きするようになったSDGs（持続可能な開発目標）の達成を目指すという点のみならず、キリスト教的な価値観に基づき、愛を実行する子どもを育てることそのものです。今年度は特に各学年の活動をいくつかに分け、その活動ごとに、特に達成を目指す学校目標を設定して実践を行っています。本ページでは、その一部を紹介いたします。

研究推進委員 佐藤 健

4つの児童・生徒像

1stステージ、2ndステージ

愛を実行する子ども
力強い子ども
進んで学習する子ども
世界の兄弟と手をつなぐ子ども

3rdステージ

愛 / 自由 / 挑戦 / 志

①活動名 ②活動の概要 ③その活動と主に関わる学校目標

1st 1年



- ① 名刺交換をしよう
- ② 1年生は、「オーロラ～思いやりの心をもって友達と接し、一人ひとりが輝く1年生～」をテーマに活動をしています。その中で、友達の輪を広げる活動として、クラスや学年間で名刺交換をしました。名前や好きなことを互いに伝え合う中で自然と笑顔が生まれ、より多くの友達と仲良くなる機会となりました。
- ③ 愛を実行する子ども

1st 2年



- ① けんこうな体をつくろう～バランスのよい食事について学ぼう～
- ② 心身の健康について考え、知る活動を通して自分や友達の心と体を大切にすることのよさを学ぶ活動の一環として、「SADAY食育体験学習」を行いました。この活動では、野菜・果物を食べることの大切さについて栄養士さんから話を聞き、お買い物ゲームで三色食品群について楽しく学びました。
- ③ 愛を実行する子ども、力強い子ども

1st 3年



- ① 自然災害からくらしを守るためにできることを考えよう
- ② 世界で増え続けている自然災害と環境問題の関係を知り、「誰一人取り残さない」というキーワードをもとに、防災とSDGsのつながりを学習しました。実際に災害が起きたことを想定した「災害シミュレーションゲーム」では、自分ができることは何かを考え、活発に話し合いました。
- ③ 世界の兄弟と手をつなぐ子ども

1st 4年



- ① 宮城県の伝統的な産業を学ぼう
- ② 宮城県石巻市雄勝町の地場産品である雄勝硯について学習することで、生活と環境の変化に対して向き合い、伝統をつないでいく人々の協力や強い思いを知り、厳しい環境の中でも生き続けることの大切さを学びました。
- ③ 力強い子ども

2nd 5年



- ① SDGsについて知ろう
- ② 年度当初に、SDGsの17の目標を通して、現代社会が抱えている問題について学びました。子ども達は、それぞれの目標がどのように関連しているのか活発に意見交換をして分類を行いました。分類したものにタイトルをつける際にも、適切な言葉や表現を選び工夫していました。
- ③ 世界の兄弟と手をつなぐ子ども

2nd 6年



- ① SDGsを手がかりに、未来につながるプログラミングの工夫を考えよう
- ② 「SDGsを手がかりに世界の問題を知り、それを解決すべく「未来につながるプログラミング」の工夫を考えました。例えば、一人あたりのゴミ排出量に目を向けたグループは、ゴミの分別ができるプログラムを組み、地球温暖化に目を向けたグループは人感センサーにつながるプログラムを組みました。
- ③ 世界の兄弟と手をつなぐ子ども

2nd 7年



- ① よりよい集団を作るには～我の世界と我々の世界～
- ② 縦割り行事やクラスの係活動等の場において、集団活動の知識を身に付け、実践を繰り返しています。所属する集団で自律して振る舞い、周囲に愛をもって働きかけることの大切さを生徒たちは学びました。将来、持続可能な人間関係を築けるよう、期待しています。
- ③ 愛を実行する子ども、力強い子ども

3rd 8年



- ① 南三陸の過去と現状について知る
- ② 東日本大震災が発生した時の南三陸での被害や、そこからどのような過程を経て現在の状況に至ったのか、また復興はどの程度なされているのかといった現状への学びを通して、自分のいのちを守るために必要なことを考えました。
- ③ 挑戦

3rd 9年



- ① パラスポーツ体験とパラアスリート講演会への参加
- ② パラリンピックの正式種目であるボッチャを体験しました。仲間どうし声を掛け合い、試行錯誤するなかで、パラスポーツの奥深さや面白さを知ることができました。また、パラアスリートの方との触れ合いを通して、障がいを持つ方への理解を深めることができました。
- ③ 愛



紹介動画

コースごとに独自の学習計画・進路計画を設け
高校を卒業しどんな進路に進むかを
ただ指導するのではなく、
進んだ進路で、そして社会に出た先で、
本当にいきいきとできる力をつけることを
目標に指導しています。



特別志学 コース Type1

これからのType1コース — 5年後10年後を考えたとき、今思うこと —

特別志学コースType1 コース長 鎌田 聡

特別志学Type1コースは次年度20年の節目を迎える。これまで、高等教育機関への進学を目指し、学びに真剣に向き合い、深く広く学ぶ環境づくりを目指してきた。他ではできない平日の9時間授業、土曜も午後まで授業や課外を中心に組み立てられた生活やコース行事があり、仲間と共に互いに学び成長しあい果敢に挑戦する姿勢や人生を切り拓く強い気持ちが育まれ、大学受験を乗り越えることを通して志実現の第一歩となる大学合格を果たしてきた。また、専門をとことん学び究めていき、視野を広げることができる大学で学びきる力をつけることをうたっているコースとして、高校生活での真剣に学びに対峙する経験は大学での学問への導入に際して非常に大きなものであったと思っている。

今後は、持続可能な社会の実現が言われている昨今、現在の社会生活の中で役に立つ・立たないという視点ではなく、人類の歴史の中で自分の取り組んできたことの位置づけを考えられる人になってほしい、そして自ら立てた志を持ち続け、社会貢献・奉仕の精神で奥深さを追究し真理を求める人になってほしいと願っている。

様々なツールが充実し、人と人とのつながりの領域が広くなり、それだけ可能性が広がり、自分と学びの「距離」が小さくなった。それらツールを活用しながら、自ら「学ぶとは何か」を考える自律の姿勢が身についた生徒の育成を目指していきたい。また、教師にとっても自分の「個性」と関連づけることが大切な社会に生きる生徒たちとともに、もがきながら統合的体験と創造的思考力をつけていくことになる大学の学びや研究へとつながる、自分自身や社会を形づくるための生涯における学びの実現を図りたい。そのために、学校教育において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」が重視すべき三要素として定められているが、情報があふれている社会の中で、必要な情報を自分の血肉となる知識にできること、それを昇華・統合させることは欠かせない。社会変革が激しい中で教育課程の変更が次年度より行われるが、ここを一つの契機として、授業時間が他に比べ充実しているType1だからこそ、学びの質の向上に向け、授業を大切に、探究の要素を各教科・科目の中に組み込む学びが展開されるコースを実現していきたい。

【生徒の声】

特別志学コース Type1
2年 小原 玲愛さん



★Type1の生活は どのような生活ですか？

Type1では、目の前の目標、そして自分自身の大きな目標に向けて一人ひとりがやるべきことを日々考えて勉強に励んでいます。周囲の頑張っている友人から刺激を受けることや、テストや模擬試験の度にしっかりと振り返ることが、自分を変えるチャンスとなっていると思います。

また、今年度は執行部として球技大会を開催しました。コロナ禍ではありましたが、少しでも思い出に残る行事にしたいと思い、沢山の方の協力をいただいて試行錯誤しながら球技大会を作り上げました。勉強だけでなく様々なことにチャレンジし、何事も楽しむ精神を育てることが出来ます。

NEWS

【球技大会】

Type1の行事を企画・運営する「Type1執行部」が中心となり、6月30日に球技大会が実施されました。参加する生徒の高い満足度の実現と、感染予防の徹底を両立するため、何度も企画を練り直し、種目をバレーボールのみにしぼり行われました。



【芸術鑑賞会】



球技大会と同日の午前中には、芸術鑑賞会として、柳家三三師匠をお招きし、落語を鑑賞しました。感染対策のため、会場での鑑賞と映像配信による鑑賞を併用する形で実施されました。

TOPICS

オンライン大学見学(高校3年生)

今年度は13の大学に協力して頂き、オンライン上で大学見学を実施しました。入試傾向についての話や在学生の話の聞いたり、キャンパスツアーを体験したり、双方向のやりとりの中で、大学をより知ることができました。また、大学生となった自分を想像することで、学習へのモチベーションを高める刺激にもなりました。



【1・2年生の縦割り学習】



コロナ禍で合宿等の活動が制限される中、昨年度から1・2年生縦割り学習の授業が行われています。今年度は、グループごとに1年生は準備してきた質問をし、2年生は質問に答えたり、自分が関心のあるテーマについて調べ、まとめたものを1年生に対し発表したりしました。同じ環境で過ごす先輩の話は説得力があり、なすべきことを確認することができました。また、2年生も自分を見つめ直す機会になりました。

特別志学 コース Type2

これからのType2教育

特別志学コースType2 コース長 阿部 仁

次年度から高等学校でも新学習指導要領に基づく教育活動が始まります。新しい教育課程の大きなポイントの一つは、改めて3観点による評価が導入される点にあります。従来の成績は主にペーパーテスト（知識）による評価が大きな比重を占めていました。新課程ではそれに加えて、思考力、表現力、自主性、協働的に学ぶ力、情報発信力なども大きく評価に加わることになります。現在、総合探究を軸としたカリキュラムマネジメントの考え方のもと、各教科内で評価要領を検討しています。これからは、「学びに向かう姿勢」、「学びを楽しむ姿勢」が重要になっていきます。



特別志学コースType2では、コース開設当初から、フランス語の全員履修、2年間のプログラムに基づいた高大連携授業の実施など、様々な特色教育を行ってきました。6年前から「グローバル実践」という探究型学習もスタートしています。さらに今年度、フランス語に加えて、台湾華語（中国語）を選択科目として導入しました。また、クロームブックを取り入れ、授業などで活用しています。次年度では、探究学習の実践として、全員必参加の国内ワークショップを企画しています。知識習得のみで終わらず、仲間とともに実際の行動に取り組むことで、さらに深い学びに繋げていきます。

ただ、忘れてはならないのは、Type2で実施しているものは、あくまでも各自の視野を広げるための、思考の仕方や課題の発見・解決策を考えるための練習をするものということです。ここで身につけたものを、どこでどうやって発揮していくのが今後各自に求められます。学校から与えられたものをただやるのではなく、自らが課題を見つけ、積極的に探究していく姿勢と行動が大切です。

先行き不透明な社会を生きていくためには、成長変化し続けていかなければなりません。Type2コースとしても、今後何が求められていくのかを踏まえつつ、生徒とともに成長するコースであり続けたいと思います。

NEWS

【台湾華語の授業】が始まりました

Type2コースにおける強化項目の一つである「複言語学習」の幅を広げ、将来、より広範囲に活躍できる素地を作っていくという目的で、5年ほど前より放課後の希望者学習として行っていた台湾華語の授業が、今年度より正式にType2の選択科目の一つとしてスタートしました。高校では以前より台湾にある2つの姉妹校（文藻外語大学と海星高級中学）及び研修実施校（輔仁大学）やプロジェクト提携校（再興中学）に加え、昨年12月台湾5大学（開南大学・樹徳科技大学・元智大学・静宜大学・中華大学）とも提携を進めており、交流が非常にさかんです。台湾で使われている台湾華語を繁体字とともに学ぶことは、大陸で使われている中国語（北京語）の簡体字にも応用できます。昨年度より台湾から先生をお迎えし、全て英語による授業を展開しています。英語による教授ということで、台湾華語そのものだけではなく、英語の強化にもつながっています。授業では、会話を中心に積極的に活動する生徒の姿が見られます。今後、それぞれの生徒が学んだ知識をどのように自らの将来と結び付け活用していくか楽しみです。



TOPICS

【グローバル実践】で生き抜く力を！

現代は、「VUCA（ブーカ）時代」と呼ばれ、テクノロジーの進化によって、社会や経済はもちろん、個人のキャリアなど、あらゆるものが複雑さを増し、これからの時代を生きる世代は予測不能な将来に対応するための知恵、資質や能力を身につけていく必要があります。Type2では、総合的な探究の時間の1、2年次において、「グローバル実践」の授業を実施しています。この授業を通し、「社会を取り巻く問題を自ら見つけにいく行動力」、「多面的な視点からその問題を捉え、課題を設定する思考力」、そして「既存の枠組みに捉われず、解決策を導き出す創造力」の向上を目指します。

「グローバル実践」では、2年次に国内の起業家とともに「地上の使命（Mission on the Ground）」に挑戦する研修（通称：U-MoG）を行います。さらに、全校生対象で企画される



国内外でのU-MoG（希望制）に参加することで、さらに実践的に「一歩先へ踏み出す力」を高めることができます。



尚志 コース

これからの尚志コース教育

尚志コース コース長 喜古 康

尚志コースは、キリスト教カトリックという普遍的な価値観のもと「志」を育む取り組みを行ってきました。学習を通して、しっかりと自己と向き合うこと。部活動や同好会活動等の特別活動を通して、社会に出て求められる生活力や人間関係力を高めること。さらに仙台藩作法の学びを通して、他者に対する思いやりや尊敬の心を培い節義ある行動と豊かな情操を養うこと。そして、東北福祉大学との高大連携プログラムなどの様々な教育活動を通して、現代社会に生きるための視野を広げ多角的な視点を持たせる教育活動。以上のことに重点を置いて取り組んできました。

NEWS

【仙台藩作法】

～瑞鳳殿特別授業について～

仙台藩作法指南役 池田 峯公

毎年10月の瑞鳳殿での宗家による特別授業は3年間の学びのまとめとして、またそれを披露する場として実施されています。

瑞鳳殿は、江戸初期における桃山様式の建築物として昭和6年に国宝に指定されましたが20年の仙台大空襲により焼失し、54年に再建され、開府400年に当たる平成13年の改修を経て往時の姿が復元され現在に至っています。

この学習の目的は以下の通りです。第一に、かつて国宝であった桃山様式の建築物の特徴について学ぶことです。政宗公をイメージさせる黒漆と金、天然素材を用いた極彩色の文様や彫刻で装飾された豪華絢爛な建物から、芸術性や技術の高さ、そしてそれがなぜこの地に造られたのかということを考えていきます。第二に、再建のために図らずも行うこととなった政宗公の墓所の発掘調査により判明した科学的なデータと、数多く残されている文献資料との整合によって得られた事実を考察します。第三に、瑞鳳殿を含む経ヶ峯全体が自然のまま残されている博物資料であるという点から垣間見える政宗公の遺言（自らの墓所をこの地に定めたこと）の意味を考えてみます。これらについて事前学習をした上で、それぞれが特に関心を持ったことについて自ら調査しレポートとしてまとめていきます。



現地での生徒たちは、古文化財の保存科学を専門にしている宗家より直接に桃山建築の特徴や、当時発掘調査に立ち会った経験を踏まえた子孫としての思いなどに熱心に耳を傾けています。この体験学習を通して、郷土への誇りと祖先への敬意、伝統を継承していくことの意義を深く感じ取っているように思います。この時期は秋の観光シーズンであり多くの観光客が訪れています。生徒たちの対応の丁寧さや本殿拝礼時の美しい姿はいつも高い評価を頂いております。学びの集大成としてこれからも大切に続けて参りたいと思います。

TOPICS

【高大連携授業】

～多分野にわたってオンライン講義受講～

高大連携授業では、提携校である東北福祉大学にご協力を頂いて、福祉・心理・情報・幼児教育・看護・リハビリテーションの6分野に別れて大学教授からの講義を受けている。

前期・後期それぞれ一つずつ興味のある講義を選んで受講し、講義を受けて興味を持った内容に関連する事柄について各自が調べ、パワーポイントを作成し皆の前で発表する。そして各講義の代表6名が教授に向けて発表して講評していただく、というプロセスを踏んでいる。本来は大学のキャンパスを訪れて、大学や学生生活の雰囲気に触れながら大学の施設で教授の授業を受けるところだが、コロナ禍の影響を受けてオンラインでの画面越しの講義が続いている。昨年度はオンライン授業が初めてのこともあり、接続がうまくいかないこと等が多かった。今年度は2年目ということと、少しずつではあるが設備も揃い、担当者の工夫もあってうまく進行できている。生徒一人ひとりがこの授業を通して大学の授業に興味を持ち成長していったほしい。



書道部の活動について

書道部
顧問 高橋 真理

主に古典・古筆の学習をしています。書を学ぶ上で最も基本となる大切なものになるからです。それを生かしながら様々な場所で活動を広めておりますが、春には東北六県高校書道交流展、夏には藤崎百貨店での部展（今年で22回目）、一年間を通して書と太鼓のパフォーマンス、県・全国大会出品など上位（入賞）を目指し取り組んでいます。コロナ禍で活動の制限はありますが、活動できることに感謝しつつ、部員全員が日々向上を目標に精進しております。

- ★第45回 全国総合文化祭 和歌山大会出場（県代表）
- ★第70回 宮城県高等学校書道展覧会 第二部推薦（最高賞）
- ★令和4年度 全国総合文化祭東京大会（県代表） 出場決定

東北六県高校書道交流展「縁」



仙台会場 当校作品「縁」
～せんだいメディアテーク～



松島会場 当校作品「縁」と「未来へ」
～瑞巖大書院～

吹奏楽部の活動について

吹奏楽部
顧問 及川 博暁

吹奏楽部は、1988年に創部し、「日々感謝」「己に勝つ」「執念」をモットーに158名の部員で活動しています。部員全員で切磋琢磨し合いながら、皆様に感動していただける音楽を目指すことはもちろん、日々の活動を通して社会性と人間性を養うことも大切にしています。

主な活動は、吹奏楽コンクール、マーチングコンテストを始めとする大会への出場のために、年間4回行う演奏会、各種イベント・地域行事への出演です。昨年度に引き続き今年度も新型コロナの影響で様々な制限がありますが、感染対策を行いながら頑張っており活動しています。

また、各大会に出場し、**全日本吹奏楽コンクール東北大会金賞、全日本マーチングコンテスト（全国大会）銀賞、管楽合奏コンテスト（全国大会）最優秀賞**をいただくことができました。これも、学校、保護者、地域の皆様の温かいご支援と応援のおかげです。

これからも、「杜の都から音楽で笑顔を届ける!」を目標に歩み続けていきたいと思っています。

日々の活動の様子は、吹奏楽部公式ホームページ、LINE、Twitter、Instagram、Facebook、YouTubeで発信していますので、ぜひご覧ください。



卒業生からの メッセージ Message from a Graduate

感動をありがとう!

[東京2020パラリンピック出場]

女子車いすバスケットボール 萩野 真世 選手

(尚志コース第50回生)



萩野真世選手と松浦珠佑生徒会長

9月28日、高等学校の全生徒に向けて、
放送によるパラリンピック出場の報告会が行われました。

全校生徒の皆さん、ご機嫌様でございます。

先日行われていました、東京2020パラリンピック競技大会に出場しました、車いすバスケットボールの萩野真世です。本日は少しの時間ではございますが、在校生の皆さんにご挨拶させていただく場を設けていただきました。

改めて、先ほどご紹介いただきました通り、私は10年前にウルスラを卒業しました、卒業生です。今回のパラリンピックの期間には、校内でトピックスの記事を掲載していただいたことや、皆さんで実際に試合の中継映像を見ながら応援して下さったクラスもあったとお聞きしました。今回の大会はコロナの影響で無観客での開催となりましたが、皆さんの応援が力となり予選リーグでは2連勝することができました。応援していただき、ありがとうございました。

女子車いすバスケットボールチームは2008年の北京パラリンピックに出場して以降、2012年のロンドン、2016年のリオデジャネイロのパラリンピックには予選で負けてしまい、本戦に出場することができていませんでした。2016年のリオオリンピックでは本校の卒業生であるバドミントン競技の高橋・松友選手がダブルスで金メダルを獲得したことで記憶に新しいのではないのでしょうか。

今大会では女子車いすバスケットボールチームでもメダル獲得を目指していましたが、結果は6位と目標を達成することはできま

せませんでした。それでも13年ぶりのパラリンピックの舞台で6位入賞という結果を残せたことは自分たちにも世界に通用するプレーができることを証明できたのではないかと思います。私自身、初めてのパラリンピック出場となりましたが、世界の強豪チームと最高の舞台で戦うことができ、真剣に楽しくプレーすることができました。日本で開催されたことによってこれまで以上にオリンピック・パラリンピックが注目され、車いすバスケットボールを多くの方に知ってもらえることができ、少しでも興味を持てただけのことを心から嬉しく思います。

また、この機会をきっかけにオリンピックの競技だけでなく、パラリンピックで行われた競技も身近に感じていただけたら嬉しいです。私は中学生の頃に車いすバスケットボールに出会い、高校生から本格的に競技に没頭し、日本代表としてパラリンピックに出場するという夢を今、叶えることができました。生徒の皆さんも今はコロナで大変な思いをしている中ではあると思いますが、夢中になっていることや目標としていることを大切に、自分の決めた道を進んで行ってほしいと思います。

私の次の目標は、3年後、2024年に開催されるパリパラリンピックでメダルを獲得することです。また競技を目にする機会があった際には、ぜひ応援していただければ嬉しいです。本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、昨年に続き令和3年度の大会も大きな影響を受けました。しかし感染防止対策を徹底し、県高校総体をはじめ、主要大会が開催できるようになってきています。日常の活動自体も制約を受ける中、厳しい環境の中で勝ち取った本校生の活躍の様子を以下にまとめました。

小・中学校

☆宮城県中学校総合体育大会

◇バドミントン部

団体戦 男子/第1位 女子/第1位
個人戦 男子(単) 優勝/高橋和希 準優勝/村木悠空 第3位/高木慎二郎
男子(複) 優勝/高橋・根本 準優勝/林・石原 第3位/高山・小峯
女子(単) 優勝/名倉 蓮 準優勝/土屋和心美 第3位/山辺彩由里
女子(複) 優勝/菅井・根立 準優勝/戸上・木村 第3位/丹野・田口
※以上 各準優勝まで東北大会出場

◇陸上競技部・・・男子砲丸投 第6位/森 一繁

◇特設卓球部・・・女子個人(単) 第3位/横山夕珠 ※東北大会出場

☆第41回 宮城県中学校新人卓球大会

◇特設卓球部・・・中学2年以下女子(単) 第1位/横山夕珠

☆東北中学校総合体育大会

◇バドミントン部

団体戦 男子/準優勝 女子/第3位
個人戦 男子(複) 第3位/高橋陽人・根本舜生
女子(単) 第3位/名倉 蓮
女子(複) 第3位/戸上・木村 第4位/菅井・根立
※以上 全国大会出場

☆全国中学校総合体育大会

◇バドミントン部

団体戦 男子/第3位

女子/ベスト16



☆令和3年度 宮城県中学校新人大会

◇バドミントン競技

団体戦 男子団体/第1位 女子/第1位
個人戦 男子(単) 第1位/村木悠空 第2位/齊藤優来
男子(複) 第1位/根本・石原 第2位/八木澤・弓削
女子(単) 第1位/山辺彩由里 第2位/山下羽奈
女子(複) 第1位/戸上・木村 第2位/新田・山崎

☆第38回 宮城県中学校校内放送コンテスト

(NHK杯全国中学校放送コンテスト宮城県大会)

◇朗読部門 奨励賞/8年 菊地うた

☆第7回 みやぎ小・中学生いじめ防止動画コンクール

奨励賞/児童生徒会執行部

☆第67回 仙台市児童・生徒理科作品展

◇小学校の部 教育長賞/3年 山口瑛司「小人のマンション」
部会長賞/3年 原田藍衣「ソーラークーラーの研究」
3年 水戸孝太郎「磁石の研究」
4年 鷹松ななみ「手洗いとアルコールの効果の研究」
6年 竹島嵩人「色の温度の変化の実験」
◇中学校の部 部会長賞/7年 隈元瞭介「気体の力で風船を膨らませる研究」
7年 佐藤舜海「豚足の骨格標本」

☆第60回 宮城県造形教育作品展

入選/2年 二瓶颯仁 9年 杉山祥平 9年 小原唯愛

☆第15回 東北の建築を描く展

入選/8年 田口帆乃佳 8年 千葉くるみ

☆令和3年度 仙台市読書感想文コンクール

市長賞/2年 中村友馬「自分と向き合う強さ」(課)
研究部会長賞/2年 川口十和「世かい平和一まずはばくから」(自)
3年 鈴木姫依「あしたのいい日」(自)
5年 鈴木嶺旺「地球の一員であること」(課)
6年 鈴木舞優「自分で行動することの大切さ」(課)

☆令和3年度 せんだい職人塾「職人さんについての作文コンクール」

優秀賞/3年 小泉旺大「すこわざのしょく人さん」

☆令和3年度 仙台市緑と花いっぱい絵画コンクール

宮城県造園芸協同組合賞/1年 スロラク リリアナ「天国のおばあちゃんへ」

高等学校

◇バドミントン部

☆令和3年度 全国高等学校総合体育大会(インターハイ・8月)

男子 団体/ベスト16 女子 団体/ベスト32

男子(複) ベスト32/相澤大智・安保武輝

☆令和3年度 宮城県高等学校総合体育大会(6月)

男子 団体/優勝 女子 団体/優勝

男子(単) 優勝/深井俊輝 準優勝/山岡 第3位/千葉 大内

(複) 優勝/相澤・安保 準優勝/篠田・千葉 第3位/山岡・片山 大内・藤田

女子(単) 優勝/御後あやか 準優勝/青木 第3位/吉岡 堀

(複) 優勝/亀井・後藤 第3位/鈴木・山口 太田・橋詰

☆宮城県バドミントン選手権大会(4月)

男子(単) 優勝/千葉倫也 準優勝/大内 第3位/亀井 安保

(複) 優勝/相澤・安保 準優勝/飯泉・矢田 第3位/松本・井上 深井・江面

女子(単) 優勝/中澤里奈 準優勝/御後 第3位/後藤

(複) 優勝/亀井・後藤 準優勝/中澤・御後 第3位/太田・橋詰

☆第76回 国民体育大会 選手選考会(7月)

男子(単) 優勝/千葉倫也 準優勝/大内 第3位/安保 飯泉

(複) 優勝/相澤・安保 準優勝/山岡・片山 第3位/千葉・篠田 井上・松本

※男子・・・千葉倫也・大内統馬・安保武輝の3名が国体選手選出(中止)

女子(単) 優勝/山口菜摘 準優勝/後藤 第3位/中澤 御後

(複) 優勝/後藤・亀井 準優勝/御後・中澤 第3位/太田・橋詰 鈴木・山口

※女子・・・後藤咲々・亀井菜杏・御後あやかの3名が国体選手選出(中止)

☆宮城県高等学校新人大会(10・11月)

男子 団体/優勝 女子 団体/優勝

男子(単) 優勝/山岡陸歩 準優勝/安保 第3位/松本 片山

(複) 優勝/山岡・安保 準優勝/相澤・片山 第3位/矢田・飯泉 尾藤・寺内

女子(単) 優勝/山口菜摘 準優勝/後藤 第3位/葛西 吉岡

(複) 優勝/亀井・後藤 準優勝/太田・橋詰 第3位/権平・堀 鈴木・山口

◇ソフトテニス部

☆令和3年度 全国高等学校総合体育大会(インターハイ・8月)・・・男子 個人 出場/木幡・小野

☆東北私立高等学校ソフトテニス選手権大会(10月)

男子 個人 ベスト8/菅野・山下 ※全国大会出場

☆令和3年度 宮城県高等学校総合体育大会(6月)

男子 団体/準優勝 女子 団体/第3位 男子 個人 第3位/木幡・小野

☆宮城県高等学校ソフトテニス夏季大会(8月)

男子 個人 第3位/木幡・小野 ベスト8/菅野・山下 佐藤・伊藤

女子 個人 ベスト8/坂井・赤間

☆宮城県高等学校新人大会(11月)

男子 団体/第3位 女子 団体/第3位

男子 個人 ベスト8/木幡・小野 菅野・山下 女子 個人 ベスト8/坂井・赤間

☆宮城県高等学校体育連盟ソフトテニス専門部表彰

功績賞/浦友輝 功労賞/加治井遼・佐藤稜輔・相澤帆乃

◇新体操部

☆令和3年度 全国高等学校総合体育大会(インターハイ・8月)・・・女子 個人総合 出場/三村月輝乃

☆令和3年度 宮城県高等学校総合体育大会(5月)

女子 団体/第6位

個人総合 優勝/三村月輝乃 種目別 フープ 優勝/三村 リボン 優勝/三村

☆第76回 国民体育大会 選手選考会(5月)

女子 個人 クラブ 優勝/三村月輝乃 ※国体選手選出(中止) ボール 第4位/高橋流奈

◇卓球部

☆令和3年度 宮城県高等学校総合体育大会(6月)・・・女子 団体/準優勝

☆宮城県高等学校新人卓球大会(11月)

女子 団体/第3位 (単) 第3位/千葉風花 ベスト8/渡邊桜菜

◇バレーボール部

☆令和3年度 宮城県高等学校総合体育大会(6月)・・・ベスト8

☆第74回 全日本バレーボール高等学校選手権大会宮城県代表決定戦(10月)・・・ベスト8

☆令和3年度 宮城県高等学校体育連盟バレーボール専門部表彰

優秀選手表彰/木村七海・小椋冬羽・千葉樹来

◇バスケットボール部

☆令和3年度 宮城県高等学校総合体育大会(6月)・・・ベスト8

☆第74回 全国高等学校バスケットボール選手権大会宮城県予選大会(10月)・・・ベスト8

◇吹奏楽部

☆東北吹奏楽コンクール(8月)・・・金賞

☆宮城県吹奏楽コンクール(8月)・・・金賞・海鋒義美賞(第1位)

☆全日本マーチングコンテスト(11月・全国大会)・・・銀賞

☆全日本マーチングコンテスト東北大会(10月)・・・金賞 ※全国大会出場

☆全日本マーチングコンテスト宮城県大会(9月)・・・金賞

☆第27回日本管楽合奏コンテスト全国大会(11月)・・・高等学校B部門/最優秀賞

◇合唱部

☆第88回 NHK全国学校音楽コンクール宮城県コンクール(8月)・・・銀賞

☆第73回 全日本合唱コンクール宮城県大会(8月)・・・金賞

◇書道部

☆第45回 全国高等学校総合文化祭和歌山大会(全国大会・8月)・・・出場/丹野友莉香

☆第73回 全国学生書道展(全国大会・10月)・・・団体 優秀(第3位)

個人 準大賞(第2位)/澤村千咲 全日本書道連盟賞(第4位)/小島結

☆第30回 国際高校生選抜書展(全国大会・10月)・・・個人 入選/丹野友莉香・澤村千咲・大槻茉優

☆第70回 宮城県高等学校書道展覧会(10月)・・・第2部 推薦/澤村千咲 ※全国大会出場

第3部 推薦/小島結 特選/大槻茉優 第1部 特選/田中凜・小島結・森田衣李・丹野友莉香 金賞/門間莉乃



聖ウルスラ学院英智音楽教室

10月23・24日、
太白区の音楽ホールにて
第74回ピアノ・ヴァイオリン発表会が
行われました。



在籍生入賞おめでとうございます

[第41回 宮城県芸術協会音楽コンクール]

[ピアノ部門]

最優秀賞 作曲者賞 仙台市長賞 杉山 美功哉さん(小・中学校4年)

[ヴァイオリン部門]

優秀賞 仙台市教育委員会教育長賞 三塚 はるかさん(小・中学校2年)



祝 伊藤 宣子校長先生 教育文化功労賞 表彰

「学校教育」分野において、
長年にわたる優れた功績と
教育文化の振興に寄与されたことが認められ、
この度、教育文化功労者として
宮城県知事より表彰されました。

〔表彰状授与事由〕

伊藤宣子氏は、平成16年4月に聖ウルスラ学院中高等学校 校長に就任、平成18年4月からは、「みやぎ私立学校教育特区」（当時）の実施主体に認定された聖ウルスラ学院英智小・中学校、および併設の高等学校の校長として、人間的成長と学力向上の両全を目指す教育改革に取り組み、きわめて高い教育成果をあげていることは多くの人に認められている。たとえば、高校では特色豊かな3コース制を構築し、全国レベルの吹奏楽部やオリンピックの金メダリスト（タカマツベア）を輩出したバドミントン部など、文化スポーツ分野で優れた成果を上げる一方、大学進学においても県内屈指の実績を安定して出し続ける進学校に変革させた。こうした手腕が



令和3年11月1日（月）14時から
東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館）大ホールで行われた
「令和3年文化の日表彰式」において
伊藤校長先生は、教育文化功労者表彰を受ける方々の
代表として表彰を受けられました。

評価され、宮城県私立学校審議会委員（現在は会長）、
宮城県高等学校入学者選抜審議会委員、県立高等学校
将来構想審議会委員、宮城県青少年問題協議会委員など
の要職就任を求められ、それぞれに力を尽くしてきた。
さらには、宮城県私立中学高等学校連合会副会長と
して、私立学校全体の振興に努めているところであり、
その功績は大なるものがある。

法人事務局

Head Office
より

11月26日（金）、学校法人設立70周年記念事業として、
ご来賓の方々をお招きして
光のプレゼンテーションホールに設置された
「パイプオルガン除幕式」が行われました。

◎ ロココ様式の美しいパイプオルガンをご寄贈いただきました

このたび、勝山企業株式会社代表取締役の伊澤平一様の御厚意により、パイプオルガンが寄贈されました。ご来賓として本学院の名誉顧問である仙台伊達家18代当主の伊達泰宗様をお迎えいたしまして、厳かに除幕式を挙行いたしました。

パイプオルガン演奏披露では、すばらしい音色が1号館校舎全体に響き渡り、演奏者が奏でた音色に深く感動しました。御寄贈いただいたパイプオルガンは、名誉顧問の伊達様の御尽力により実現したものでありますとともに、高額の御寄付を頂戴いたしました。また、PTA及び同窓会からも協賛金を頂戴したことにより実現したものであります。寄贈品は、本学院の貴重な教育財産として児童・生徒の教育実践活動に大きな効果を発揮できるものと確信しております。



◎ 英智教育基金について

私学である本学院における財政基盤は、在校生の授業料、国・県からの補助金、賛同頂ける方々からの寄附金により成り立っております。

本学院に思いを寄せてくださる企業・法人・個人の皆様からのご寄附の用途は、次代を担う奨学金制度の充実や施設整備の拡充等の教育活動に当てられます。昨今の厳しい社会経済状況の中、誠に恐縮ではございますが、何卒ご支援、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

◆お手続き・お問合せは、法人事務局 TEL.022-286-5935まで

2020年（下期）・2021年（上期）祝意・ご寄付一覧

■ 伊達家伯記念會（株）様
■ （株）齋喜ビル 様
■ 勝山企業（株）様
■ 瀧本（株）様
■ （株）レバスト 様
■ （株）三立 様
■ 長谷川体育施設（株）
東北支店 様
■ （株）アド東北プロ 様

■ （有）三條 様
■ 靴の丸栄 様
■ SSK 鈴木正博 様
■ 聖ウルスラ学院英智
高等学校同窓会 様
■ 聖ウルスラ学院英智父母教師会 様

その他多数の法人様、個人様より
祝意・ご寄付をいただいております。

本学院へのアクセス



- 仙台市営地下鉄東西線 …… 【一本杉キャンパス】薬師堂駅下車 徒歩10分
【木ノ下キャンパス】連坊駅下車 徒歩5分
- 仙台市営地下鉄南北線 …… 河原町駅下車 徒歩25分
- JR仙石線 …………… 宮城野原駅下車 徒歩25分
- 仙台市営バス …………… 仙台駅西口バスプール5番のりば
〈南小泉線〉若林区役所前下車 すぐ
- 最寄駅～自転車通学路



聖堂とグリーン広場（一本杉キャンパス）

一本杉キャンパス

〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号

英智小・中学校 TEL.022-286-6461(代) FAX.022-286-6431

英智高等学校 TEL.022-286-3557(代) FAX.022-286-7279

法 人 事 務 局 TEL.022-286-5935 FAX.022-286-6334



1号館



3号館

木ノ下キャンパス

〒984-0047 仙台市若林区木ノ下1丁目25番25号

英 智 幼 稚 園 TEL.022-293-4024 FAX.022-293-4014



南小泉総合グラウンド

〒984-0828 仙台市若林区南小泉丁目3番1号



編集後記

聖ウルスラ学院英智の一員になって

備前焼の陶芸家で人間国宝の伊勢崎淳氏は、伝統について次のように話している。「先祖から受け継いだものを生かしながら、新しい時代の空気を吸って、新しいものを生み出していく。そういう姿勢が本当の意味の『伝統』だと思うんです。だから『伝統』というのは常に改革の連鎖であって、時代の変化と共に変わっていくもの。同じものを繰り返すだけなら『伝承』であって、いずれ消えてしまいます。今に生きるものを生み出すことが伝統を引き継ぐものの責任であり、未来へつなぐものの役目なんです」。

今年度は、新型コロナの影響を受けて、すべての人々が社会生活及び学校生活に不安を抱きながら過ごしてきた。そんな中、本学院では学校生活が受け身になることなく、教職員間で知恵を出し合って児童・生徒にとって意義のある活動を見だし、その実践に向けて創意工夫しながら歩んできた。教職員の力を結集して先を見通した計画的な教育実践、そして、15年間の一貫教育によって段階的成長を促し、先の読めない社会情勢の中で、社会に参画し活躍できる人間力の育成に努めている。

聖ウルスラ学院英智の母体となる聖ウルスラ修道会が1535年に設立され、今年で創立486年を迎える。本学院も設立70年

法人事務局 広報課長 保角 博行

という節目を迎えた。その歴史の中で、母体の根源となる精神や学びが大切に受け継がれてきたとともに、社会のニーズに応える教育実践を推し進めてきた。キリスト教の人間観に基づく人格形成を教育の指針として敬重し、2016年1月に閣議決定された「Society5.0」を念頭に置いた教育方針を大きな柱とした。「Society5.0」とは、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間社会」。このことを踏まえて、18歳成人としての成長スタイルを育成する15年間の一貫教育を施し、新時代を見据えた授業づくりと教育課程の実践、そして、創造社会に向けた高い確かな高次元の学力を身につけられる教育活動を進めている。児童・生徒たち及び教職員は、今まで積み上げてきたことに自信を持って次の段階に進み、そして、次のステップでの自分の役割を自覚しさらに前へと進んでいる。

本学院の教職員にとって大切なことは、伝統を知りその伝統に新たな魂を込めることだと思う。伝統を守るだけではなく、新たに新しいものを創り上げる、そのような教育活動こそが聖ウルスラ学院英智の強みであり、誇るべき姿ではないだろうか。